



第 2 章 岐阜県教育が目指す姿

1 基本的な考え方



ふるさとに誇りをもち、「清流の国ぎふ」を担う子どもたちの育成

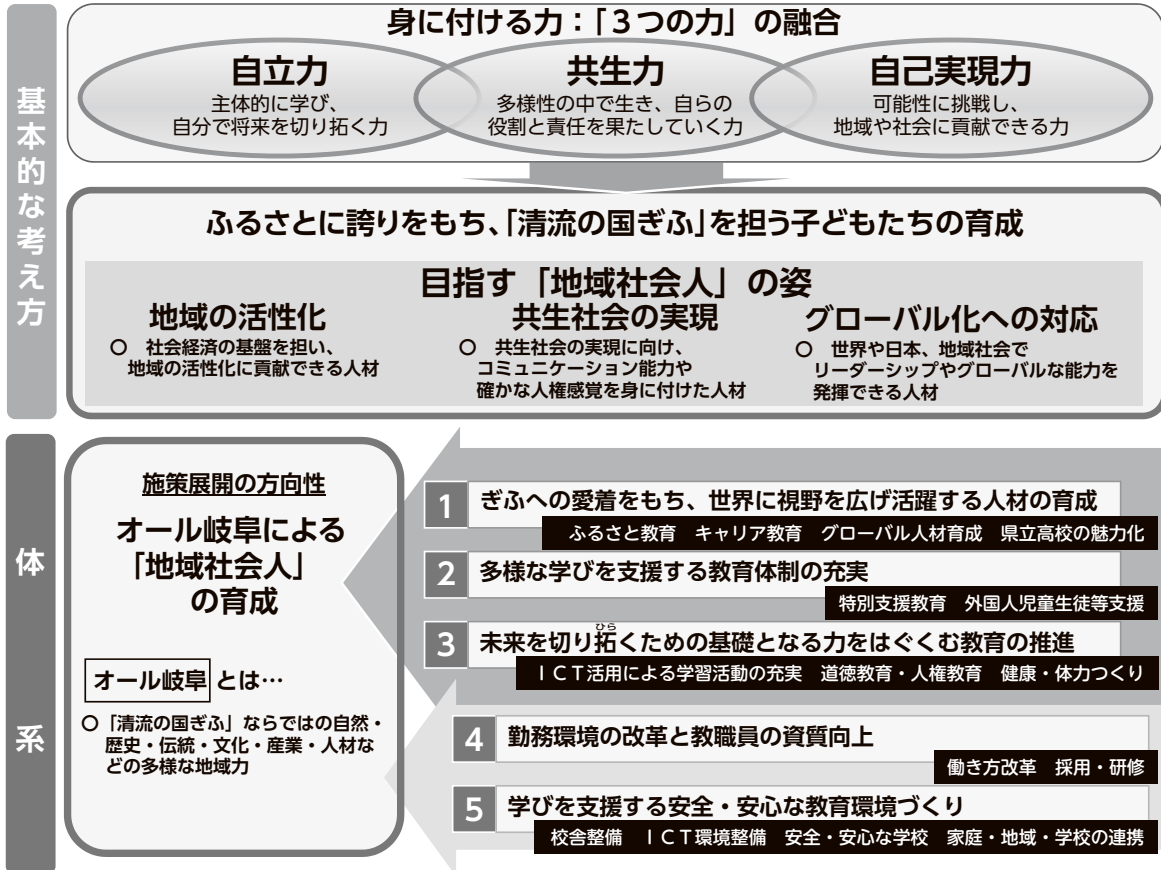
□ 世界的な視野をもち、地域社会の活性化に貢献する「地域社会人」

- 子どもたちが生きていく 2030 年以降の社会では、少子高齢化やグローバル競争の激化、技術革新の一層の進展（第 4 次産業革命*）、超スマート社会*（Society5.0）の到来など急激な社会・産業構造の変化が予測されています。今後 10～20 年後には、人工知能（AI）の発展によって近い将来多くの職種がコンピュータに代替されるとの指摘¹もあります。
- 人口減少・少子高齢化、技術革新の進展により、将来の予測が困難な状況の中で、地域社会の活力を維持・向上し、持続可能な「清流の国ぎふ」づくりを実現するためには、一人一人の能力を最大限に高め、未来に希望をもって、その実現に向けて主体的に社会や地域に関わる「**地域社会人**」として活躍できるよう、教育の充実を図らなければなりません。
- 子どもたちには、一人一人が生活や人生、社会を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにすることや、複雑化・多様化した現代社会の課題に対して、主体的な学びや多様な人々との協働を通じ、その課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと等が求められています。
- このために、予測困難な状況の中での問題の核心を把握し、その解決を目指し、ICT を主体的に使いこなすだけでなく、世界的な視野をもち多様な人々と協働しながら、人間ならではの感性や創造性を発揮しつつ新しい価値を創造する人材を育成することが重要となります。
- 県では、予測困難な問題に対応するため、主体的に学び、自分で将来を切り拓く「自立」の力に加え、人と自然とのつながりや、人と人とのつながりを実感しつつ、多様性の中で生き、自らの役割と責任を果たしていく「共生」の力をはぐくみ、子どもたちが自らの可能性に挑戦し、地域や社会に貢献できる「自己実現」の力を身に付け、これらの「**3つの力**（自立力・共生力・自己実現力）」の融合により、世界的な視野をもち、新しいことにチャレンジし、それぞれの夢に向かって頑張ることができる教育を推進していきます。
- そして、岐阜県で生まれ育った子どもたちが、「ふるさと岐阜への誇りと愛着をもち続けながら、清く、優しく、たくましく生きていこうとする心（清流スピリット）」をもち続け、将来世界で活躍したり、地域の活性化に貢献したりして、「**地域社会人**」として活躍し、「清流の国ぎふ」を担うことができるよう、岐阜県ならではの自然・歴史・伝統・文化・産業・人材などの多様な地域力「オール岐阜」により、「ふるさとに誇りをもち、『清流の国ぎふ』を担う子どもたちの育成」を目指すことを基本的な考え方とします。

¹ 人工知能（AI）の発展によって近い将来多くの職種がコンピュータに代替されるとの指摘

・日本の労働人口の約 49%が就いている職業が技術的に AI 等で代替可能となるとの予測。株式会社野村総合研究所（2015 年）

岐阜県教育振興基本計画（第3次岐阜県教育ビジョン）構想図



「3つの力」の融合

技術革新の一層の進展（第4次産業革命）、超スマート社会（Society5.0）の到来により、変化が激しく予測困難な社会を生き抜いていくために、子どもたちが、自立力・共生力・自己実現力を身に付け、これらの「3つの力（自立力・共生力・自己実現力）」の融合により、一人一人の優れた才能や多様な個性を伸ばし、さらにそれを磨きながら、未来に希望をもって生涯を生きるとともに、世界的な視野をもち、世界や地域社会の活性化に貢献できる力を養います。

- **自立力**（主体的に学び、自分で将来を切り拓く力）
自己肯定感*に裏付けされた自信に基づき、生涯にわたって自ら学び、自ら考え行動し、主体的に社会に関わりながら、自分で将来を切り拓いていく力
具体的には、「主体性・積極性」、「自信・自己肯定感」、「学びに向かう力」、「勤労観・職業観」、「健康・体力」、「自己管理能力」 など
- **共生力**（多様性の中で生き、自らの役割と責任を果たしていく力）
多様な人々の互いの人格を尊重し、支え合いながら豊かな人間関係を広げるとともに、人や自然のつながりや、人と人とのつながりを大切にし、自らの役割と責任を果たしていく力
具体的には、「自他の人格や生命の尊重」、「社会性・コミュニケーション能力」、「思いやりの心」、「道徳性・規範意識」、「多様性を尊重する心」、「郷土愛」 など
- **自己実現力**（可能性に挑戦し、地域や社会に貢献できる力）
人間ならではの感性や創造性を発揮しながら、夢や志をもって可能性に挑戦し続けるとともに、グローバルな視点から問題の核心を把握し、その解決を目指し地域や社会に貢献できる力
具体的には、「自らを高める力」、「個性を磨く力」、「継続する力」、「目標を設定する力」、「グローバルな考え方」、「ものごとを成し遂げる力」 など

2 2030年以降の社会変化等を見据え、今後5年間で重点的に取り組む施策

今後5年間で重点的に取り組む施策①

ふるさと教育の充実

◆「ふるさと岐阜」への誇りと愛着をはぐくむ、ふるさと教育の充実

子どもたちが、将来世界で活躍したり、地域の活性化に貢献したりして、「地域社会人」として活躍するためには、子どもたちが、ふるさとの自然や文化等をよく知り、また、自らがふるさとで活躍していく将来像を描けるようにしていく必要があります。そのためには、「ふるさと岐阜」への愛着をはぐくむふるさと教育を、小・中学校に加えて高等学校においても本格的に展開していきます。

○ 地域創生に向け、ふるさとの活性化のための課題解決に取り組む学習の推進

社会の諸課題の解決に関する知識・技能を身に付け、地域課題を多面的・多角的に分析し、その解決方法を検討・提案できる能力の育成を図ります。

○ 県内施設を活用した「ふるさと岐阜」の魅力を深く知る機会の充実

小・中学校では、岐阜県が世界に誇る自然・歴史・文化・産業等を体験して学ぶ取組、高等学校では、学校の特色に応じて県内施設を利用した課題発見・解決能力を伸ばす取組を推進します。

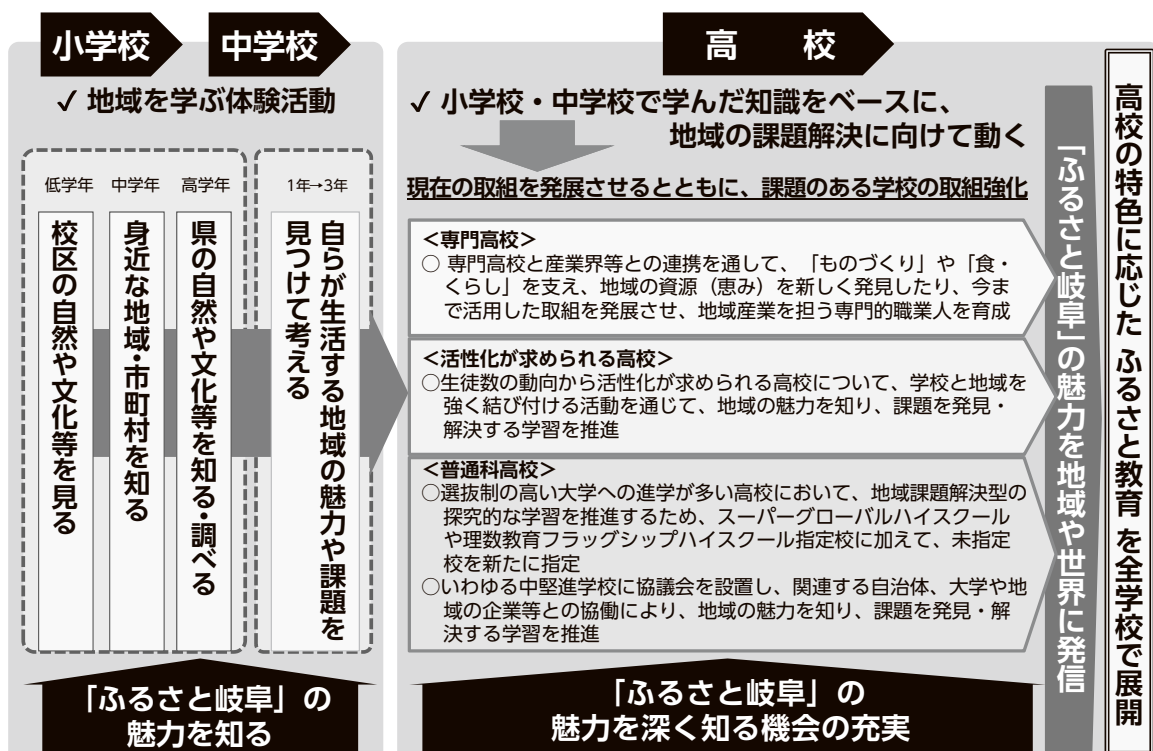
○ 岐阜県の恵まれた自然環境を学び、継承する学習の推進

川や森林をはじめとする岐阜県の恵まれた自然環境を学び、継承する学習や、教科での学びとつなげたふるさと学習など、岐阜県の地域性を生かした教育を推奨します。

「ふるさと岐阜」を学ぶふるさと教育の充実

■ 各教育段階に応じた

「小・中・高等学校一貫したふるさと教育～地域の魅力を知り、課題を発見・解決～」を推進



○ 地域創生に向け、ふるさとの活性化のための課題解決に取り組む学習の推進

社会の諸課題の解決に関する知識・技能を身に付け、地域課題を多面的・多角的に分析し、その解決方法を検討・提案できる能力の育成を図ります。また、その成果を地域や世界に発信するなど、学びの充実を図ります。

大学や地域の企業等と連携を図り社会課題を発見し解決できるグローバル・リーダー育成を目指す高等学校（スーパーグローバルハイスクール*）、地域の教育資源*等を活用して主体的に課題を発見し解決を図る探究活動を中心とした理数教育を推進する高等学校（スーパーサイエンスハイスクール*）、専門高校が企業等と連携・協働して産業界の第一線で活躍できる専門的職業人を育成する高等学校（スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール*）を重点的に支援します。

スーパーハイスクール*から意欲のある生徒が集まり、大学や関係機関と連携しながら、岐阜県や地域の課題の解決策を探り、活性化に向けた新たな提案をするプロジェクトの充実を図ります。プロジェクト型学習においては、ICTを効果的に活用し、学校の枠を超えたグループでの分担・協働による企画書の作成や学校間の交流により、豊かな学びを実現します。

専門性を生かし、ふるさとの活性化や課題解決に向けて取り組む教育の推進 [目標1-①]

○ 県内施設等を活用した「ふるさと岐阜」の魅力を深く知る機会の充実

小・中学校においては、岐阜県が世界に誇る自然・歴史・文化・産業等を体験して学ぶ取組を、高等学校においては、学校や学科の特色に応じて県内施設等を利用して課題発見・解決能力を伸ばす取組を推進します。

県内施設等を活用した学習を通して、小・中学校では、地域の課題を我が事として捉えるために、地域の魅力や課題を知る学習を進め、高等学校では小・中学校で学んだことをベースに地域創生に資する地域課題の解決をテーマとした学習に取り組むことを推進します。地域をテーマにした学習においては、ICTを活用して、グループ活動の中で意見や考えを議論して整理したり、グループや学級全体での意見交換をしたりすることで、生徒の思考力、判断力、表現力を高めます。

ぎふが世界に誇る自然・歴史・文化・産業等を体験して学び、探究する取組の推進 [目標1-②]

○ 岐阜県の恵まれた自然環境を学び、継承する学習の推進

川や森林をはじめとする岐阜県の恵まれた自然環境を学び、継承する学習や、教科での学びとつなげたふるさと学習など、岐阜県の地域性を生かした教育を推奨します。

清流と森に学ぶ教育活動の推進 [目標1-③]

○ 岐阜県の豊かな自然環境を生かした、豊かな人間性をはぐくむ教育の推進

県内各学校に環境教育推進員を派遣し、児童生徒の発達の段階に応じた環境学習計画の立案や、年間を通じた地域での自然に目を向けた学習を行うことにより、自然環境に親しみながら豊かな人間性の育成に取り組めます。

清流を通じた地域との連携による環境学習の推進 [目標1-④]

岐阜県の豊かな森と水に注目した「ぎふ木育教室」、「緑と水の子ども会議」の取組により、自然や木に触れて親しむことで、岐阜の自然に誇りと愛着をもち、心豊かでたくましい子どもたちをはぐくみます。

森や木と触れ合い、学び、ともに生きる「ぎふ木育」の推進 [目標1-⑤]

今後5年間で重点的に取り組む施策②

ICT環境の整備と利活用の推進

◆ あらゆる学習の基盤となる ICT 環境の整備と、ICT を活用した学習活動の充実

これからは、人工知能（AI）等をはじめとする技術革新が一層進展し、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会*（Society5.0）の到来が予測されています。新学習指導要領*においては、情報活用能力*が学習の基本となる資質・能力として位置付けられ、ICT 機器はあらゆる学習活動の基盤となります。学校の ICT 環境の整備を加速化し、生徒が、ICT を活用して他者と協働し、人工知能（AI）等の限界も考慮しつつ、新しい価値を創造する力が身に付けられるよう、「主体的・対話的で深い学び*」の視点からの授業改善を実現する必要があります。

○ 学校の ICT 環境整備の推進

あらゆる学習の基盤となる ICT 環境を整備するため、県立学校の普通教室等に、大型提示装置、コンピュータ、実物投影機、無線 LAN、ホワイトボードを常設します。

○ ふるさとをテーマにした地域課題探究学習の取組と「主体的・対話的で深い学び」の実現

高等学校での地域や大学等との協働による、ふるさとの自然や文化等をテーマにした地域課題探究学習において、ICT を積極的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」に必要な情報活用能力を育成し、地域や世界へ発信するなど、その学びの充実を図ります。

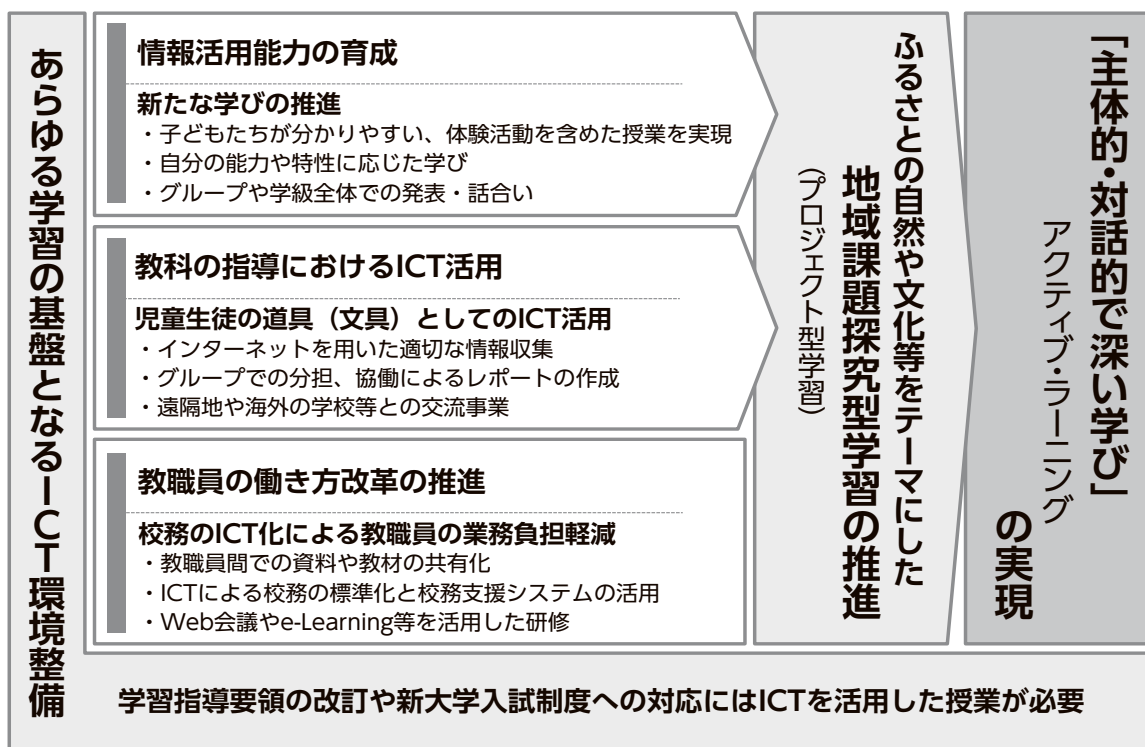
○ ICT を活用した業務負担軽減による教職員の働き方改革の推進

ICT による教材の共有化や校務の標準化により業務の効率化を図り、教職員が元気に児童生徒と向き合えるよう、教職員の働き方改革を推進します。また、教職員の業務負担軽減に効果的な統合型校務支援システム*の導入を推進します。



情報活用能力を育成する ICT を活用した学習の充実

■ 学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実



○ 学校の ICT 環境整備の促進

あらゆる学習の基盤となる ICT 環境を整備するため、県立学校の普通教室等に大型提示装置、指導者用コンピュータ、学習者用コンピュータ、実物投影機、無線 LAN、ホワイトボードを常設し、ICT 化を促進します。また、新しい授業スタイルに必要なデジタル教材も整備します。

ICT の環境整備と利活用の推進 [目標 12-④]

○ 情報活用能力の育成

2020 年度から実施される新学習指導要領では、情報モラル*を含む情報活用能力が学習の基本となる資質・能力として位置付けられ、各教科等の特性に応じて、ICT を活用した学習活動の充実が求められています。

小・中学校では、現代的な諸課題について、必要な情報を判断し、多様な人々と協働しながら問題を発見し解決していく学習に取り組むことができますようにします。

教科横断的な視点に立った深い学びを実現する教育の推進 [目標 11(1)-③]

高等学校では、「主体的・対話的で深い学び」に必要な情報活用能力の育成を図るため、各教科において、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用した学習活動の充実を図ります。

ICT を活用した「主体的・対話的で深い学び」の推進 [目標 11(2)-②]

社会の諸課題の解決に関する知識・技能を身に付け、地域課題を多面的・多角的に分析し、その解決方法を検討・提案できる能力の育成を図ります。各教科等の指導で ICT を活用することは、児童生徒の学習への興味・関心を高め、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながります。

専門性を生かし、ふるさとの活性化や課題解決に向けて取り組む教育の推進 [目標 1-①]

児童生徒の情報活用能力を育成するため、ICT を効果的に活用するための研修、他機関と連携したプログラミング教育の研修により、教員の指導力向上を図る取組を行います。また、スマートフォンをはじめとした様々なインターネット機器の普及への対応、「ネット依存」、「有害サイトへのアクセス」、「ネット上のいじめ」など、情報モラル教育の充実を図るため、学校における情報モラル指導の工夫とさらなる対策を推進します。

教員の ICT 活用指導力の向上 [目標 12-⑤]

○ 多様なニーズに応じた ICT の活用

長期入院等に伴い学校で学習指導を受けられない高校生に対して、医療機関・学校等が連携し、ICT を活用して授業に参加できる体制を整備します。

長期入院している高校生に対する教育保障体制の整備 [目標 7-⑧]

中学生・高校生を対象に LINE などの SNS を活用した相談体制を構築します。

SNS を活用した相談体制の構築 [目標 10-③]

○ 教職員の働き方改革の推進

校務を標準化し業務の効率化を図るため、教職員の業務負担軽減に効果的な統合型校務支援システムの構築・普及・運営を推進します。ICT を活用し、授業準備の省力化・教材の共有化を積極的に進めるとともに、Web 会議や e-Learning 等により、校内で受講できる研修を拡充します。

ICT の活用等による業務改善の推進 [目標 20-②]